

より早く、安くを追求した

板金・金属部品の試作

海外発注可
納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンライン技術
メイドインジャパン
試作可小ロット

一般的に曲げ加工で使うプレスブレーキだが、豊里では多様な使い方をする

業務内容

多様な素材と板厚に対応し
家電や自動車の部品を試作

板金製品と金属部品の試作製造会社で、絞り加工を含む薄板板金試作を得意とする。鉄やアルミ、ステンレスだけでなく、バナ素材、チタン、銅など多様な金属を対象に、板厚0・025～16mm以上と幅広く対応。このため顧客も家電、電気部品、自動車部品、建築金物、ガス機器と分野が多岐にわたる。

「より早く、より安く作るにはどうすれば良いか、を四六時中考えている」と言う渡辺保社長は、顧客から持ち込まれる相談や要求。現場を率いる岩水建二工場長は「何でもかんでも、とまでは言わないが、顧客との話し合いの中で前向きに解決策を探るのが豊里金属のスタイル」とときっぱり言い切る。

強み

製作の各工程をすべて
内作し「ワンストップ」に

金型製作から絞り加工、ブランク加工、曲げ加工、溶接加工などすべて内作で一貫加工し、高度な品質管理と提案力、短納期を可能にしている。早く安く金型をつくるための手法として現代では広く認知されている積層金型も、その概念さえなかった1966年に試行錯誤で編み出して活用。蓄積した技術をベースに進化させ、外枠を通常の鉄、内枠をS50CやS55Cなどの金型材で構成する「進化型ハイブリッド金型」を確立した。各工程を内作するワンストップ化と進化型ハイブリッド金型の2つを強みとして、短納期・低価格に磨きを掛けている。

人材育成

古くからの職人の
技術と最新技術の融合

「当社の最大の強みは実は人材。新しい技術を覚えることを楽しんで」と渡辺社長は胸を張る。社の指針として、スキルアップとレベルアップのもとに各作業者が古くからの職人の技術と最新技術を取り入れ、それぞれが提案できる思考力とフットワークを持つのが豊里の社員の特徴。

「より早く、より安く」を四六時中考えているのは社長だけでなく、もはや社員を含めた企業全体の日常文化となっている。



少数精鋭でさまざまな加工品を生み出す

今後の展望

大型プレス機や最新レーザー
加工機の導入を検討

渡辺社長は「今ある設備を活用して試作品を生み出すことが低コストの秘訣の1つ」とする。現有設備では不可能と思われる加工も「機械や設備メーカーが想定外のびっくりするような使い方」でクリア。曲げ加工に使うブレーキプレスで、抜いたり絞ったりする「裏技」は同業者も参考にするほどだ。ただ「さらなるスピードアップや精度向上には設備投資は欠かせない」。順送りなしのステンレス大型部品成形やハイテン材成形に対応するための1000tプレスほか、銅の切断や異種素材の重ね合わせ切断が可能な高性能レーザー加工機の導入を検討している。

COMPANY PROFILE

株式会社豊里金属工業

大阪26

当社の歴史

昭和41年に複写機やエアコン等の部品量産・試作会社としてスタート。将来を見据え、昭和55年の株式会社化を機に試作に特化しました。取引の窓口が資材から技術に替わり、直にやりとりするようになったことで提案が可能に。長年、試作技術を蓄積してきたため、画一的な手法ではなく独自のやり方で顧客に最適な提案ができます。

職人技術と最新技術を駆使し、
短納期・低価格でお届けします。

代表取締役 渡辺 保さん



■主な事業内容

絞り加工を含む精密試作
板金加工および小ロット
生産

■主な取引先（納入先）

大手家電、電気部品、
自動車部品、建築金物、
ガス機器メーカーなど

住所／〒533-0013
大阪市東淀川区
豊里4-16-24
TEL／06-6328-9122
FAX／06-6320-1315
創業／昭和41年12月
設立／昭和55年10月
資本金／1,000万円
従業員／14名

<http://www6.ocn.ne.jp/~toyosato/>